

日本の海と魚と食を守るために

宮崎県水産物ブランド品

<http://www.freshbrand.jp/>

てげ、うめっちやが!!

ひむか木サバ
宮崎県水産物ブランド品
認定第4号

宮崎かつおうみっこ節
宮崎県水産物ブランド品
認定第3号

五ヶ瀬宮まめ
宮崎県水産物ブランド品
認定第2号

宮崎焼酎もろみ漬け(シイラ)
宮崎県水産物ブランド品
認定第1号

四川金鱈
宮崎県水産物ブランド品
認定第3号

北浦潮アジ
宮崎県水産物ブランド品
認定第3号

宮崎カンパチ
宮崎県水産物ブランド品
認定第1号

宮崎のさかな
宮崎県認証

いきいき宮崎のさかなブランド確立推進協議会
宮崎県・JF宮崎漁連

みやざき金ふく
宮崎県水産物ブランド品
認定第1号

宮崎一日あわび 浦の恵
宮崎県水産物ブランド品
認定第1号



CONTENTS

FISHING POLITICS

漁政

- 東北地方太平洋沖地震…支援の輪広がる
- 第11回シーフード料理コンクール 農林水産大臣賞受賞試食会
- 平成22年度漁業就業者 確保育成センター全国会議
- 平成22年度資源回復制度普及・啓発講習会
- 藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯の 保全活動事例発表会
- 平成23年2月属人水揚げ表

FISHERY MANAGEMENT

漁協経営情報

- 漁協通常総会・総代会

BUSINESS

業務情報

- JFブランド商品 「ポートワインダー」導入
- 「宮崎初かつおフェア2011」開催概要

FISHERIES CO-OPERATIVE

漁連情報

- 平成22年度第2回内部監査実施
- 平成22年度職員研修会
- JF直販・レストラン連絡協議会の開催
- 宮崎の初春を味わえ「カツオづくし定食」

FISHERIES EXPERIMENT


水産試験場

- イワガキ種苗生産 養殖試験について -増殖部-
- 2月の動き(県関係)

RELATED ORGANIZATION

関係機関

- 平成23年度 宮崎県旋網漁業組合総会
- 第16回全国青年・女性漁業者交流大会
- 2月の動き

水産宮崎ダウンロードサービス 

※必要な方はコチラから A4 サイズで出力出来ます。

東北地方太平洋沖地震…支援の輪広がる

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震災害を受け、JFグループ宮崎「東北地方太平洋沖地震宮崎県漁業団体対策本部」を設置、かつお・まぐろ漁業者の第2のふるさとである東北地方を支援するため、活動を行っている。

支援物資の提供

3月15日、東北地方の食料事情の深刻さを受け、支援物資として本会が販売している飲料水「美泉水」200ケース・果物・タオルを全漁連を通じて被災地へ提供した。



募金活動の実施

3月15日から宮崎市山形屋前にて県内水産団体と協力、「東北地方太平洋沖地震被災者へのご支援を」ののぼりを掲げ、募金活動を行った。県民の皆様の関心も高く、募金開始から10日目には200万円以上ものご支援をいただいた。

県南の日南市・南郷・栄松・外浦漁協でも船主・漁協職員が9カ所で募金活動を行った。県南のかつお船・まぐろ船は気仙沼・塩釜などで水揚げを行うことが多く、今回の震災時本県船は帰港していたが、第2のふるさとでもある東北地方を支援したいと多くの船員・船主が募金活動を行った。



県南での募金活動（南郷漁協提供）



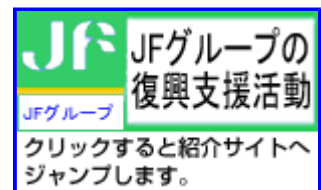
宮崎漁協女性部による支援バザー

県央の宮崎漁協女性部では、3月25日漁協会議室において東北地区太平洋沖地震支援のバザーを行った。女性部・漁協職員が持ち寄った日用品、漁協自慢のちりめんを特別価格で提供、募金箱を設置するとともに、売り上げを義援金として役立ててもらおうと活動を行った。

JAグループ宮崎からも震災見舞金として支援いただいた。本県で昨年発生した口蹄疫の際に気仙沼では「がんばれ宮崎気仙沼の会」を立ち上げ、募金活動等支援いただいた経緯もあり、本会を經由し送られることとなった。

今回の「東北地区太平洋沖地震」の被災者の皆様へ心からお見舞い申し上げますとともに、JFグループ宮崎一丸となり復興に向け全漁連・漁協と共に協力させていただきます。

また、JFグループによる復興支援活動を紹介いたしておりますので、ご確認ください。



第11回シーフード料理コンクール 農林水産大臣賞受賞試食会



去る2月23日、日南市役所において昨年11月に開催された第11回シーフード料理コンクール(全漁連主催)で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞された日南学園調理科 福永悠太さんの「南の国からアボカドに乗ってやってきたかつおくん」の試食会が日南市水産振興対策協議会・日南学園高等学校の共催で行われた。ホテル・レストラン関係者が見入る中、日南市の魚でもあるカツオを堂々と捌いていた。試食では、「魚の臭みもなくおいしい」「やわらかくて食べやすい」と高評価であった。

平成22年度 漁業就業者確保育成センター全国会議

平成23年2月22日に東京都コープビルにおいて、漁業就業者確保育成センター全国会議が開催された。水産庁漁政部企画課山下課長補佐の挨拶の後、(1)平成22年度全国漁業者確保育成センターの事業実施状況について(2)平成23年度全国センターの事業計画等について説明がなされた。次に、(3)各地の取組について、長崎県旋網漁業協同組合 専務理事 小坂安廣氏より「長崎県における新規就業者確保育成事業等について」と題して、センター事業を活用して平成18年以降で12名に対し研修を実施しているとの報告があった。次に、(有)海鮮倶楽部 代表取締役 加藤卓也氏よりビジネスプランモデル事業を活用した「漁協、漁業者との連携による効率的なマコ生産」について報告がされた。また、東洋物産株式会社 マリン部課長 久木田憲泰氏より「北海道における漁船海難防止対策事業について」の報告がなされた。

平成22年度資源回復制度普及・啓発講習会

平成23年2月18日大阪市(新大阪ワシントンホテル)において、平成22年度資源回復制度普及・啓発講習会が開催された。

まず始めに水産庁より①資源管理指針等推進事業②資源管理体制推進事業③水産業体質強化総合対策事業のうち再編整備等推進支援事業の次年度関連予算について説明があった。

次に、資源管理に関する各地の取組等について次の①～⑤の報告がなされた。

- ①関連産業者意識調査報告—周防灘小型底曳き網の資源回復計画—
水産大学校 水産流通経営学科 講師 大谷誠氏
- ②アワビ漁業の協業会からの教訓—川尻漁協(茨城県)の事例より—
東京海洋大学 海洋学部 教授 馬場治氏
- ③京都府沿岸海域における漁場利用調整の現状と課題
鹿児島大学 水産学部 准教授 鳥居享司氏
- ④我が国の資源管理と海洋保護区について
東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任准教授 八木信行氏
- ⑤アワビ類の資源管理等の取組について
徳島県 伊島漁業協同組合 参事 伊勢秀雄氏

また、平成23年4月から制度がスタートする資源管理・漁業所得補償対策について、特に資源管理部門について水産庁より説明があった。

藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯の保全活動事例発表会

JF 全漁連(共催・海と魚と食を考える会)は、2月28日、東京・千代田区のグランドアーク半蔵門において、漁業者などなぎさの保全活動に取り組む全国の守人約300人参加のもと「なぎさの守人シンポジウム2011」を開催した。



開会にあたり長屋信博JF全漁連常務は「このシンポジウムは、里海を守る多くの活動を知ってもらうとともに各地で参考としてもらうため開催した。皆さん方には、なぎさの保全・里海づくりの大切さを感じて頂きたい。」と挨拶。水産庁漁港漁場整備部の高吉晋吾整備課長は「磯焼け対策などの技術開発、基盤整備、環境生態系保全対策を効果的に連携させることによって、多様性に富んだ沿岸環境を保全・回復させていきたい。」と挨拶した。

第1部では、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニットのあん・まぐどなるど所長による「海人万華鏡～里海から見た日本列島～」と題した特別講演 あんさんは、1994年から日本各地の漁村を巡ってホームステイし、人びとの暮らし方や海との接し方を学んだ体験も織り交ぜて、里海からみた日本を語った。

第2部は、

- ①北海道・長万部ほっき貝漁場環境保全委員会・有賀 智氏
- ②福島県・いわき藻場保全研究会・新谷 渡氏
- ③愛知県・蒲都市漁場環境保全協議会・江戸俊介氏
- ④的矢湾アマモ再生協議会・北村 亨氏
- ⑤兵庫県・森地区豊かな海づくり活動組織・森 正安氏
- ⑥徳島県・牟岐の藻場を守る会・長岡弘和氏
- ⑦高知県・池ノ浦・久通磯焼け対策部会・早瀬利治氏
- ⑧沖縄県・恩納村美ら海を育む会・山城正己氏

8人の“なぎさの守人”が活動を発表。

ディスカッションでは、コーディネーターを務めた鈴木輝明名城大学教授が「漁業活動の維持と海の生態系の維持をどうするかは同義語。本質的に漁業が他の産業と違うのは、効率性を求めると漁業自体が瓦解するという諸刃の剣。微妙な生態系と付き合いざるを得ない重みのある産業であるということ。漁業者の結束を高め、海に関心のある若い人を育てて広い意味で持続させることが必要。そのためにはもっと情報の発信と共有をはかることが重要」と締めくくった。

♪海とっしょに 浜とっしょに♪

元気に暮らそう JF 共済

手コ くらし カサテ リコ
 ねんきん がんきん なぎさ年金

漁業協同組合・JF共済推進本部
<http://www.kyosuiren.or.jp>



平成23年2月属人水揚げ表

漁協名 \ 区分	2月分			2月末累計			昨年同月累計			増減		魚価対比 %
	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	
北浦	2,864	193,663	68	4,932	351,277	71	1,941	220,448	114	2,992	130,829	-37.3
島浦町	1,062	148,255	140	1,260	217,975	173	600	245,307	409	660	-27,332	-57.7
延岡	16	4,652	294	30	10,053	340	34	11,608	345	-4	-1,555	-1.5
延岡市	53	49,337	929	103	74,956	726	121	83,489	691	-18	-8,533	5.1
庵川	87	40,096	462	165	91,776	556	142	77,296	544	106	14,480	2.2
門川	40	19,957	504	54	27,231	503	59	23,701	399	-756	3,531	25.9
日向市	278	186,507	670	507	317,061	626	810	411,928	508	-304	-94,867	23.1
都農町	22	11,243	518	58	32,584	561	94	49,606	527	-36	-17,022	6.4
川南町	316	178,353	564	543	317,681	585	843	456,197	541	-299	-138,517	8.0
一ツ瀬	11	6,942	653	23	15,307	674	26	19,478	743	-4	-4,171	-9.3
檣浜	2	1,077	502	5	2,705	532	11	4,781	430	-6	-2,076	23.9
宮崎	68	34,339	508	121	61,165	504	143	54,005	377	-22	7,159	33.6
宮崎市	45	25,890	572	109	51,821	475	151	70,533	466	-42	-18,712	2.0
日南市	460	217,046	472	582	287,023	494	788	341,260	433	-207	-54,236	14.0
南郷	571	271,454	475	664	320,591	483	1,252	650,111	519	-588	-329,519	-7.0
栄松	50	23,359	471	73	39,840	544	77	32,499	422	-4	7,341	29.0
外浦	292	131,175	449	376	179,265	477	526	197,303	375	-150	-18,039	27.0
串間市東	191	96,455	506	248	125,104	504	262	125,710	480	-14	-605	5.0
串間市	703	408,364	581	1,602	912,969	570	1,478	822,600	556	124	90,368	2.4
合計	7,129	2,048,162	287	11,456	3,436,383	300	9,359	3,897,859	416	2,097	-461,476	-28.0

端数処理の関係で、下1桁が合わない部分があります。

漁業通常総会・総代会

11月決算組合の平成22年度通常総会・総代会が一斉に開催され、平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画等の提出議案を審議し承認決定した。

組織及び事業概況は次の通り。

1.南郷漁協通常総代会(2月8日)

正組合員数	264名
准組合員数	42名
信用事業の貯金高	52億7,944万円
購買事業の取扱高	15億8,986万円
販売事業の取扱高	67億4,172万円
加工事業の取扱高	1億5,655万円

2.外浦漁協通常総会(2月9日)

正組合員数	123名
信用事業の貯金高	26億289万円
購買事業の取扱高	6億268万円
販売事業の取扱高	19億6,202万円

3.栄松漁協通常総会(2月10日)

正組合員数	82名
准組合員数	2名
信用事業の貯金高	7億6,585万円
購買事業の取扱高	1億3,361万円
販売事業の取扱高	4億5,314万円



BUSINESS

JFブランド商品 「ボートワインダー」導入（JF川南町）

JF 川南町は、平成22年度リマ区域等周辺漁業施設設置事業により上架用台車・JFブランド商品「ボートワインダー」を導入した。当地区は、主力漁業であるマグロ延縄漁船の大型化が図られているものの、10トン以上を上架してメンテナンスできる施設がなく、これまで上架可能な施設のある他港に回航を余儀なくされていた。このことから効率的な操業による漁業経営の安定化を図るために地元において上架し、メンテナンスする必要がある、今回10トン以上の大型船用の上架施設を整備することとなった。県内で唯一導入実績のあるJF島浦町の視察を通じて同商品の「作業安全性」、「省人化」、「作業時間の短縮」等を確認評価した上での今回の導入となった。



「宮崎初かつおフェア2011」開催概要

目的

全国に先駆けて水揚げされる「宮崎初かつお」の新鮮さ、おいしさを県民及び県外客に広くPRすることにより、認知度向上及び消費拡大を図ることを目的として「宮崎初かつおフェア2011」が開催されます。今年で六回目となる。

期間

平成23年4月1日(金)～5月8日(日)の約1ヶ月と1週間

場所

「のぼり旗」または「タペストリ」、「ポスター」を掲げる県内の鮮魚店・量販店、料理・飲食店、漁連・漁協直営店、ホテル、宮崎空港ビルなど、約180店で、初かつおの販売、あるいは、初かつお料理を提供します。

行事

のぼり渡し式(初かつおフェアの開催式典)

日時	4月1日(金)午前5時45分から午前6時まで
場所	宮崎市中央卸売市場内 魚せり場にて

プレゼント企画

①「のぼり旗」または「タペストリ」、「ポスター」を掲げるお店で、宮崎初かつおフェア期間中、かつおを購入、又は食事される方に抽選で50名様に水産物加工品が当たる。応募はポスターや、宮崎初かつおフェアを検索して、ご覧ください。

② テレビ視聴者プレゼント

4月2日(土)	UMKテレビ「JAGA天」にて抽選で10名様に水産加工品プレゼント
4月15日(金)	UMKテレビ「3きゅう」にて抽選で3名様に初かつおプレゼント
4月29日(金)	UMKテレビ「3きゅう」にて抽選で3名様に初かつおプレゼント



協賛行事

JR九州宮崎総合鉄道事業部主催

日南線観光列車「海幸山幸」車内にて、初かつおフェア期間中の土曜・日曜・祝祭日の運行16回、抽選により「県内水産物加工品」や「初かつお(日南市・日南市観光協会提供)」が当たるプレゼント企画

平成22年度 第2回内部監査実施

漁 連では、去る2月17日～3月4日(5日間)本所・各出先において平成22年度第2回内部監査を実施した。

監査の範囲及び監査方法

(1)組織・事業及び経営の合目適正・合法性について、試査を基礎とした。

監査手続

(1)実査、帳票、証憑書類による計数の突合等

監査実施期間及び所要日数

2月17日～18日	県北(2日間)
2月23日～24日	県南(2日間)
3月4日	県央(1日間)

平成22年度 職員研修会

漁 連では、コンプライアンスについて1月20日～25日の間、各事業所毎に研修会を実施した。この研修会は、宮崎県漁連コンプライアンス・マニュアルに添って『コンプライアンスとは』と『法令違反をしないこと』を再認識し本会職員として必要な法令等の知識向上を目的として行われたものである。

研修内容

(1)コンプライアンスについて

JF直販・レストラン連絡協議会の開催

去 る、3月2日(水)、JF直販・レストラン連絡協議会を漁協・漁連(門川・日向市・宮崎市・南郷漁協・漁連)の担当者を参集し開催した。

本連絡協議会は、直売レストラン事業をおこなう漁協・漁連が連絡を密にし、情報の共有を図り事業を円滑におこなうことで、県下水産物の販路拡大とレストラン事業の収益性の向上を図るという趣旨のもとに、昨年度立ちあげられた。

今回は、下記のことについて協議・報告がなされた。



協議事項

- 1.「みやざき地産地消こだわりの店・食材の店」の登録について
- 2.スタンプラリーキャンペーンの結果について
- 3.合同イベントの開催について
- 4.各店舗の近況について

宮崎の初春を味わえ「カツオづくし定食」



魚 乃里「ぎょれん丸」では、宮崎で獲れるかつおを県民に広く味わっていただくため、3月17日から5月8日までカツオフェアとして「かつおづくし定食」(写真)を提供します。

また、フェア期間中「鰹たたき定食」「鰹めし定食」には、鰹を使った小鉢をサービスしています。

この機会に是非お立ち寄り下さい。

イワガキ種苗生産・養殖試験について —増殖部—

はじめに

カキはタンパク質や鉄・亜鉛などのミネラル、ビタミンB類など様々な栄養素が多く含まれていることから、海のミルクと呼ばれ、生食からフライ、鍋物まで色々なかたちで食されています。カキといえば一般的にマガキのようですが、食用にされるカキにはマガキの他にもイワガキ、イタボガキなどがあります。中でもイワガキはマガキに比べ大型種であり、殻付重量で1kgをこす個体もあり、まさに「岩」のような形をしています。また、マガキは冬場の食材ですが、イワガキは夏場でも食すことができますので、「夏ガキ」ともいわれます。本県では、イワガキは地元での自家消費が一般的なようですが、場所や季節により地元の料理店のメニューで並んだり、スーパーなどでみることがあります。水産試験場では夏場を中心とした新しい養殖生産物としてのイワガキの可能性を探るため、イワガキの種苗生産と養殖試験に平成21年度から取り組んでいますので、その概要を紹介します。

イワガキの種苗生産

イワガキを養殖するには養殖用の種苗を確保する必要があります。種苗の確保には人工採苗と天然採苗があります。ここでは水産試験場で昨年度から実施している人工採苗を紹介します。イワガキの人工採苗では成熟した母貝から卵を切開法(図1)で取り出し、同様に精子を雄貝から絞りだして媒精(図2)します。受精卵は媒精後から発生が進み、1日後にはD型幼生(図3)になり、餌をとるようになります。餌は浮遊珪藻(キートセラス)を与えています。

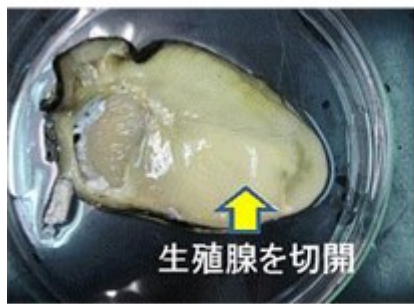


図1 切開する軟体部



図2 媒精



図3 D型幼生 (媒精後1日)

また、イワガキ幼生の浮遊期間(図4)は生育条件で異なりますが、2~3週間と思われる、その後、岩や貝殻などに付着します。今年度は飼育開始から約3週間後に付着器としてイワガキ殻を飼育水槽に投入し、幼生を貝殻に付着させました(図5)。

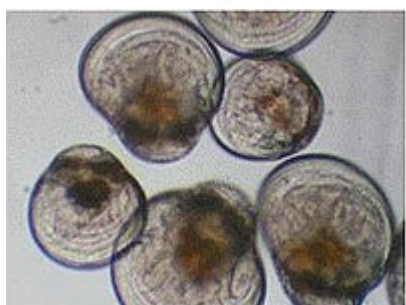


図4 ペリンジャー幼生 (媒精後10日)



図5 付着した稚貝

イワガキ養殖試験



図6 イカダ式垂下養殖

※写真の貝殻は稚貝を付着させた付着器

平成21年度に生産した稚貝を用いて、宮崎市青島と延岡市浦城にて養殖試験を行っています。試験は海面筏に種苗を吊しておこなっています(図6)。養殖イワガキの成長の推移を図7に示しました。宮崎市青島と延岡市浦城では成長に差がありますが、ここでは延岡市浦城に注目してみますと、養殖試験開始時の平均殻高は6.7mmであり、6か月後には51.7mm、1年後には86.2mm、1年6か月後には121mmになりました。また、1年6か月後の平均殻付重量は185.3gになりました。

イワガキの出荷の目安は殻付重量で200～300g以上といわれており、延岡市浦城においては養殖試験開始から1年6か月経過した段階で約3割の個体が殻付重量で200gに達しています。また、大きな個体ではすでに300g以上(図8)のものもあります。今後、延岡市浦城ではイワガキの養殖を開始して、約2年で多くの個体が出荷サイズになると予想されます。



図8 殻付重量300gを超える個体

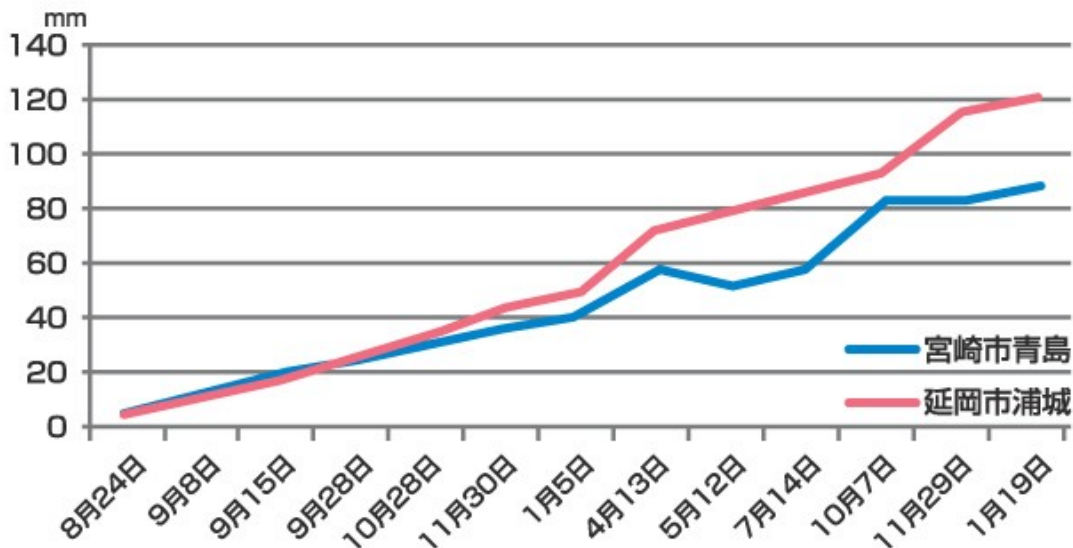


図7 養殖イワガキの成長の推移 (平均殻高)

養殖にあたっての課題



図9 ヒラムシ①



図10 ヒラムシ②

養殖試験を行う中で出てきた課題として、ヒラムシ(図9、10)による食害があげられます。ヒラムシとは扁形動物に属する生物で、ヒラヒラと扁平な形が特徴で、貝殻の隙間から侵入し、貝の軟体部を食べます。特に高水温時に摂食量が増えるようで、夏から秋にかけて被害が大きくなりました。

また、成長に伴う、カキ同士の競合による減耗・脱落(図11)も課題として考えており、今年度は1個体ずつに分けて養殖する手法である「耳吊り養殖」(図12)に取り組み、現在、試験養殖として継続しているところです。

耳吊りは蝶つがいの少し上の貝殻に電動ドリルで直径2.5mmの孔を明け、そこにテグスなどを用いてロープに固定する方法で行いました。



図11 カキ同士の競合による減耗・脱落



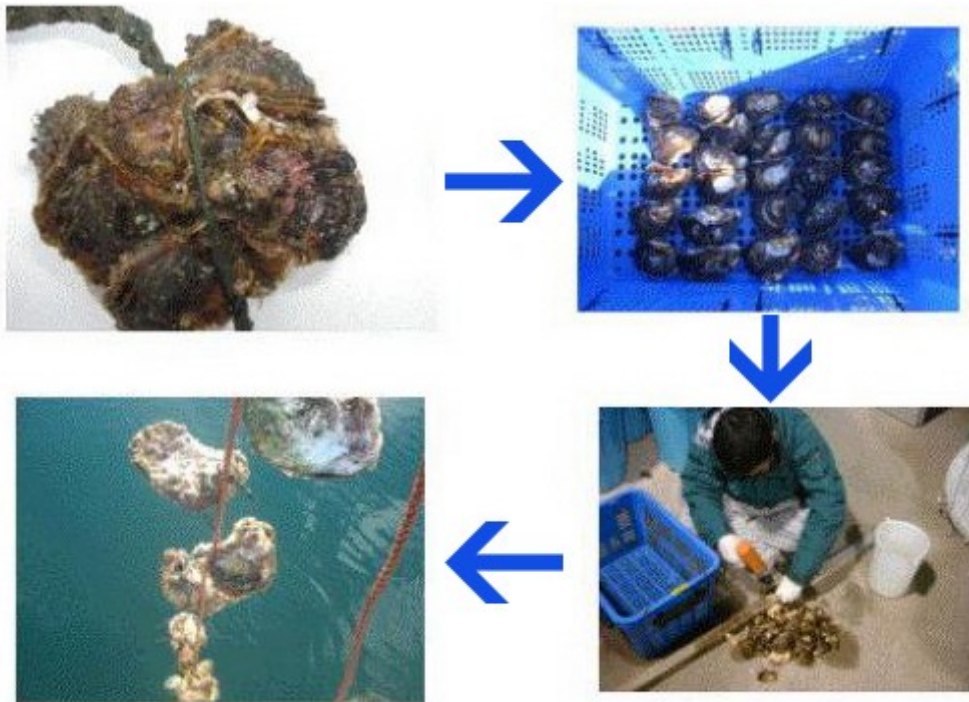


図12 耳吊り作業の様子

イワガキ養殖の特徴

イワガキに限らず、二枚貝等のろ過食性生物は、海水中のプランクトンの他、浮遊している懸濁物を餌として利用するため、増養殖により沿岸域の水質浄化・保力が期待できます。また、作業として定期的な貝掃除は必要ですが、毎日の給餌作業など魚類養殖に比べ労力やコストがかからず、飼料や燃油価格の高騰などの経費増が経営を圧迫している本県漁業の貴重な収入源になりうると考えています。

今後の展開

今回は水産試験場で取り組んでいるイワガキ種苗生産と養殖試験を紹介しましたが、昨年度から始まったばかりで、まだデータ等が不足しています。今後は、種苗生産については生残率の向上、養殖試験については成長や歩留りの調査を行いつつ、効率的な養殖方法を検討していきたいと考えています。いつの日か宮崎で養殖されたイワガキが家庭の食卓や飲食店で食べられる日がくることを楽しみに試験していきたいと思えます。

2月の動き (県関係)

7日	宮崎県栽培漁業推進協議会(宮崎市)	28日	第347回海区漁業調整委員会(宮崎市)
8日	中部地区漁業士研修会(宮崎市)		

人と自然との調和

漂白剤

薬用ソルトハミガキ

わかしお を使おう!

資材の購入はJFグループ(漁協・漁連・全漁連)へ

平成23年度宮崎県旋網漁業組合総会

宮 崎県旋網漁業組合(組合長 森本徳喜)は、3月3日、メリージュ延岡において平成23年度通常総会を開催した。協議事項として、

- 1.平成22年度事業報告及び収支決算書の承認について
 - 2.平成23年度事業計画及び収支予算書(案)の承認について
 - 3.平成23年度賦課金の額及び徴収方法の決定(案)についてを審議し、原案どおり承認決定した。
- また役員改選が行われ、以下のとおり新役員が決定した。



役職名	氏名	所属漁協	船名
組合長	菅野 教義	北浦	長漁丸
筆頭理事	清田 幸一郎	島浦町	春日丸
理事	申田 豊一郎	北浦	龍王丸
〃	森本 徳喜	島浦町	事平丸
〃	中島 耕成	島浦町	鶴島丸
〃	高須 重行	北浦	高進丸
監事	中森 秀樹	北浦	申栄丸
〃	山下一満	島浦町	満丸

第16回全国青年・女性漁業者交流大会

第 16回全国青年・女性漁業者交流大会は、平成23年3月1日から2日にかけて東京都のグランドアーク半蔵門で開催された。

各県から選ばれた全国各地の48グループがテーマ別に5つの分科会で成果を発表した。

第1分科会:資源管理・資源増殖部門

第2分科会:漁業経営改善部門

第3分科会:流通・消費拡大部門(日南市漁協女性加工グループ発表)

第4分科会:地域活性化部門

第5分科会:多面的機能・環境保全部門(日南市漁協青壮年部発表)

うち、本県からは、日南市漁協青壮年部所属の蛭田透氏が第5分科会で『日南の漁業を未来に繋ぐ～小学生を対象とした体験漁業の取組～』と題して発表を行い、全国漁業協同組合連合会会長賞を受賞した。また、女性部では、日南市漁協女性加工グループ所属の太田豊子氏が第3分科会で『後世に伝えたい私の味～日南魚うどんにかける思い～』と題して発表し、その部門で最も優秀な発表に与えられる農林水産大臣賞を受賞した。



2月の動き

18日 宮崎県旋網漁業組合総会

宮崎県水産物ブランド品が食べたい!

【営業時間】
 【直売所】月～木 AM10:00～PM5:30 / 金～日 AM10:00～PM8:00
 【レストラン】月～木 AM11:00～PM2:30 (昼のみ)
 金～日 AM11:00～PM2:30 / PM5:00～PM8:30
 【問い合わせ】〒880-0858 宮崎県宮崎市港2丁目6番地
 TEL.0985-28-6114